

踊って健康に！ ふざかし四つ竹会



5月初めに城址公園で開催された花祭りでは、様々な歌や踊りが披露されました。その中で今年初めてお目見えした「四つ竹踊り」、音楽に合わせ、両手に持った4枚の竹を、「力チツ、力チツ」と打ち鳴らしながら踊る姿が目につきました。

この「四つ竹踊り」を中心となつて披露したのが「ふざかし四つ竹会」です。益子町で親しまれているこの踊りを、東汗の数人で始めてみようかと話したところ、たちまち□□ミで広がり、東汗全域から23人が参加するようになりました。これが今年3月のことです。その後は、月2回益子町から先生を招いての練習と自主練習を重ねてきました。会員の1人は、「最初

今月の輝ける星

は音を鳴らすこともできなかったが、今は音楽が流れると自然に体が動き出してしまうんです。」と話していました。この踊りで必要な音を鳴らす道具も、自治会内の人が竹を加工し作ってくれました。また、衣装は昔の着物をリサイクルし、会員が仕立て直して着用しているそうです。

会員の皆さんに、この踊りの魅力を聞いてみると、「誰にでもできるし、楽しく指先や体を動かすことで、脳を刺激し活性化されているように思えます。また、閑節などの調子もいんですよ。」と楽しそうに話してくれました。

「今後は、老人施設やイベントなどに出向き、皆さんの前で踊ったり、4つ竹を手に一緒に楽しんだりできたらいいですね。この踊りが東汗だけではなく、もっと広がってもらいたいので会員募集中です。」と話し、とても明るくて前向きな皆さんでした。



広報紙で見る上三川町50年

現在の表紙の原型

現在の広報紙の表紙をご覧ください。大きな町の名前と写真、そして目次、人口という形で、他のページに比べ、文字が少なくレイアウトされています。

他の雑誌やパンフレットなどでも、このような表紙になっているものが多いのではないのでしょうか。現在は当たり前のようになった、このような形の表紙が広報紙に取り入れられたのは、昭和40年5月に発行された第16号でした。それまでは表紙に大きな写真を掲載しても、一つの記事という扱いでした。表紙に記事を載せないということは、当時としては贅沢な作り方だったのでしよう。

その後、表紙を飾る写真は、季節感のあるものや大きなイベントの一場面など、広報紙の顔として、その時の1枚が掲載されてきました。

また、表紙ができたことにより、新聞のような広報紙から、情報誌としての役割を果たすように変化してきたともいえるのではないのでしょうか。



この年の広報紙には、「第1回文化祭」や、今は数え切れないほどたくさんある「信号機第1号設置」という記事が掲載されました。